

事務事業名	保育所施設修繕事業	所属部	子ども政策局	所属課	子ども政策課	
総合計画体系的	政策名	(Ⅲ)支えあい健やかに暮らせるまち《保健・医療・福祉》	所属G	総務政策グループ	課長名	渡部泰昌
	施策名	(25)子育て支援の充実	担当者名	南波真二	電話番号	0854-40-1044 (内線) 2252
	目的	対 A)子どもの保護者と産み育てたい夫婦 対 B)乳幼児・児童・生徒(0～18歳)	意図	A)安心して子育てができる。B)心身ともに健やかに育つ。	予算科目	会計 011503 款 115 目 1015 大事業名 公立保育所管理事業 中事業名 29 保育所施設修繕事業 小事業名 30 保育所施設小規模修繕事業
	基本事業名	(072)子育てと仕事の両立支援	意図	子育てと仕事を両立できる。		

1 現状把握【DO】

(1)事業概要

① 事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 ( H16 年度～ ) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( 年度～ 年度 )
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)	・公立保育所(幼保、保型こども園含む)施設の修繕及び備品更新等

(2)事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動	R元年度実績(R元年度に行った主な活動) ・老朽化に伴う施設修繕及び備品更新等	R2年度計画(R2年度に計画する主な活動) ・老朽化に伴う施設修繕及び備品更新等			
	② 活動指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R元年度(実績)	R2年度(計画)
	ア 修繕等対応件数	件	139	120	124	100
	イ 保育所(幼保、保型こども園含む)数	施設	9	9	9	9
	ウ					
	エ					

(3)事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R元年度(実績)	R2年度(計画)
	公立保育所(幼保、保型こども園含む)施設及び施設に入所する子どもとその家族	ア 18歳までの子どもを持つ世帯数	世帯	3,094	3,013	2,953	2,888
		イ 保育所(幼保、保型こども園含む)数	施設	9	9	9	9
		ウ					
② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R元年度(実績)	R2年度(計画)	
施設使用上の安全性及び利便性を確保する。	ア 子育てしやすい環境だと感じる保護者の割合(行政サービスの視点)	%	79.2	-	-	-	
	イ 子育て支援に関する行政サービスが整っていると感じる市民の割合	%		75.0	70.2	76.0	
	ウ						

(4)事務事業のコスト

① 事業費の内訳(1年度決算)	② コストの推移	単位	H29年度(決算)	H30年度(決算)	R元年度(決算)	R2年度(計画)	
〔保育所施設修繕事業〕 修繕費 1,223千円 工事請負費 5,390千円 (大東保育園床修繕工事) 備品購入費 1,504千円 その他 195千円 計 8,312千円	財源内訳	国庫支出金	千円				
		県支出金	千円				
		地方債	千円	12,000			
		その他	千円				
		一般財源	千円	18,624	12,528	18,452	7,912
	事業費計(A)	千円	30,624	12,528	18,452	7,912	
〔保育所施設小規模修繕事業〕 小規模修繕工事 10,140千円	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	
		延べ業務時間	時間	427	250	250	
		人件費計(B)	千円	1,741	1,083	1,060	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	32,365	13,611	19,512		

(5)事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
各施設の老朽化に伴い、修繕必要箇所及び更新必要備品が増加している。	各施設からの優先度では、温度差があることから、担当者において要望箇所を確認し、優先順位の格付けを再度行い、対応している。	保護者会等より修繕要望がある。

事務事業名	保育所施設修繕事業	所属部	子ども政策局	所属課	子ども政策課
-------	-----------	-----	--------	-----	--------

## 2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があると理由
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合 →	
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？ 税金を投入して達成する目的か？		
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？ 意図を限定・拡充する必要はないか？		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合 →	
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？		
C 効率性	<input type="checkbox"/> 向上余地がある	理由	施設の老朽化に伴い、修繕等必要経費は増加しており、予算内で対応できない状況である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない		
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		
D 公平性	<input type="checkbox"/> 影響無	理由	安心安全な環境で生活できるよう、子どもの安全面を最重点に考えるべきであり、廃止・休止はできない。
	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有		
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		
C 効率性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合 → (具体的な手段や類似事業名)	理由	施設の維持管理事業であり、施設が存続している限り、統廃合はできない。
	<input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる		
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない		
C 効率性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)		理由
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	施設の老朽化に伴い、修繕等必要経費は増加しており、これ以上の削減は施設の安全性を確保できない恐れがある。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない		
C 効率性	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？		理由
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	現場確認、発注、実施確認等必要最小限の対応であり、削減の余地はない。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない		
D 公平性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		理由
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	統一的な目線により管理施設全体を確認の上修繕等を行っていることから公平・公正である。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である		
評価の 総括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)
	A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
B 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		

## 3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	② 改革・改善による期待成果																			
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持低下</td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	成果	向上			維持低下	●	×			×	×
		コスト																		
	削減	維持	増加																	
成果	向上																			
	維持低下	●	×																	
		×	×																	
<p>各施設の老朽化に伴い、修繕必要箇所及び更新必要備品が増加している。また、雨漏り等大規模な修繕が必要な施設も発生してきており1件あたりの経費も増加すると想定できる。よって、大規模修繕については、年次計画により計画的な実施が必要と考える。</p>	<p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>																			